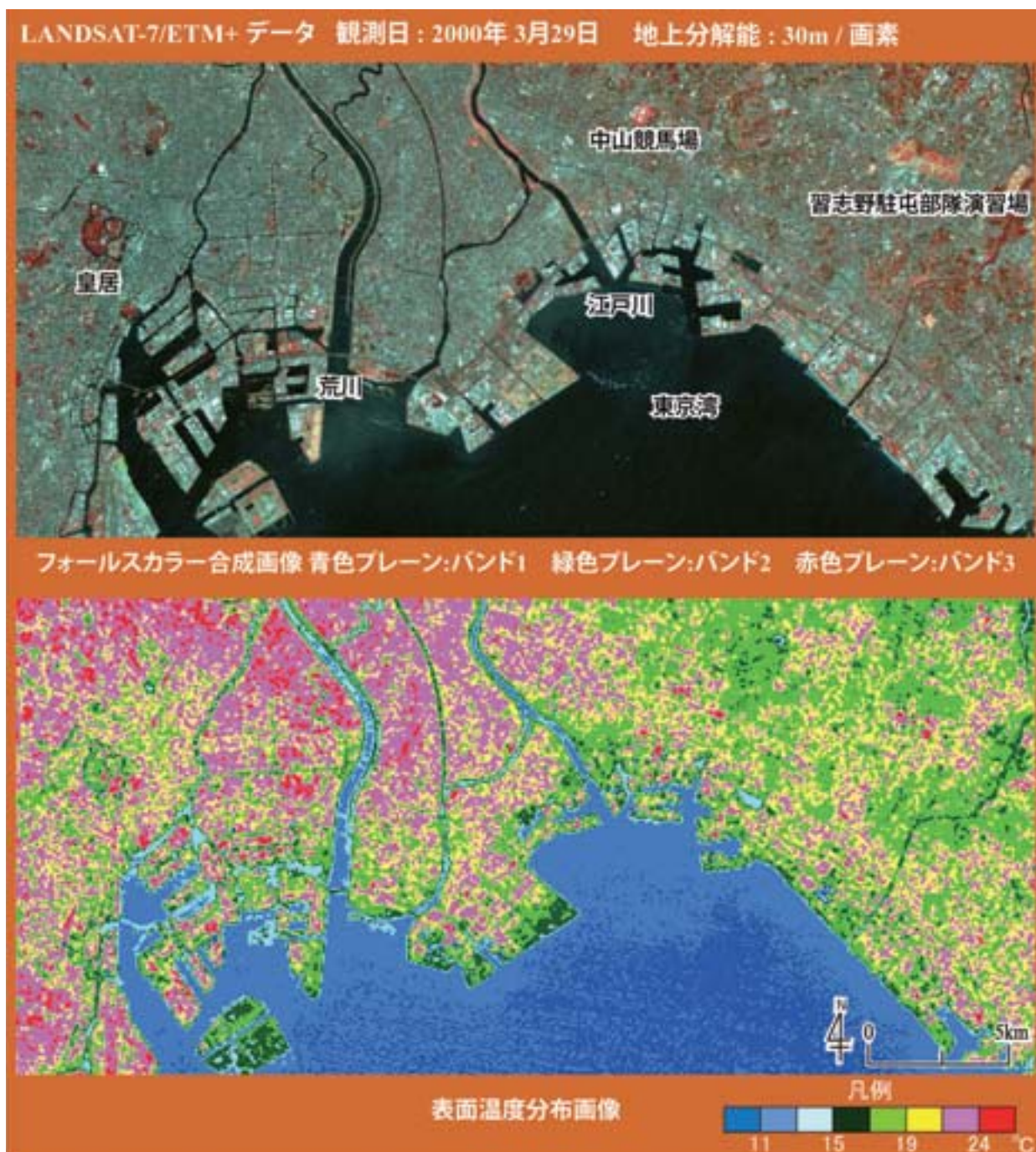


人工衛星LANDSATがとらえた「東京湾」周辺

データ収集：米国地質調査所（United States Geological Survey：USGS）

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

下図上段は、東京湾周辺のフォールスカラー合成画像（地上分解能30m／画素）です。バンド2（520～600nm）、バンド3（630～690nm）、バンド4（760～900nm）に対応する観測波長帯で観測されたETM+データをそれぞれ「青、緑、赤」色のプレーンに割り当て、この合成画像を作成しました。下段は、バンド6（1040～1250nm）の熱赤外域データを用いて表面温度分布画像（地上分解能60m／画素）を作成した例です。都市域の表面温度は高く、植生域では低いことが読み取れます。表面温度分布画像をデータセットとして、時系列で分析することは、ヒートアイランド現象の分析、水域・植生環境のモニタリング等に寄与することは誰しもが認めるところです。しかし、陸域や海域を含めて、表面温度そのものの推定精度に関する問題については検討すべき課題も多く、熱赤外域データの適用分野の開拓を含めて、今後の研究に委ねられています。



過去の「国土の姿を見る」画像集は次の URL でご覧いただけます。 http://www.jacic.or.jp/books/jacicjoho/kokudo/kokudo_index.html